

令和6年能登半島地震の地震活動と防災事項

2026年3月16日24時現在 ※前報からの更新箇所を下線で表示

【防災事項】

- 2024年1月1日に発生したM7.6の地震により揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているので、復旧活動などを行う場合には今後の地震活動や降雨の状況に十分注意。やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図る。
- 石川県では、大雨の影響で地盤が脆弱になっている場所があり、土砂災害の危険性が通常より高いと考えられる。
- 冬季に積雪量が増えると地震時に住宅にかかる負担が大きくなることから、住宅等の屋根の積雪状況についても留意。

【概況】

石川県能登地方では、2020年12月から地震活動が活発になっており、活動当初は比較的規模の小さな地震が継続する中、2023年5月にM6.5、2024年1月にM7.6、2024年11月にM6.6などの比較的規模の大きな地震も発生した。M7.6の地震の活動域では、地震活動が低下してきているものの、3月に震度1以上を観測した地震が3回発生するなど継続している。

今期間（3月3日以降）、震度1以上の地震を2回観測した。今期間の最大規模の地震はM3.3の地震（5日14時17分、珠洲市で震度3）である。

※震度は震度計のある場所で観測したものを発表している。震度1以上の地震情報を発表していない場合でも、震源直上の現地では揺れや音などを感じている場合もある。

令和6年能登半島地震の地震活動と防災事項

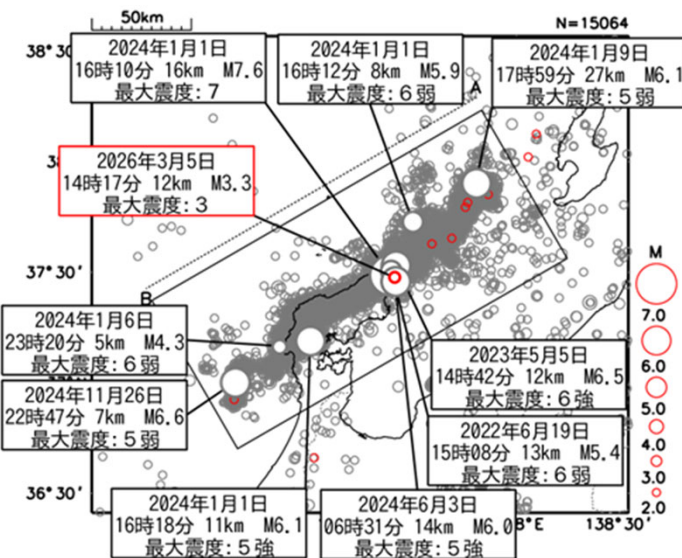
2026年3月16日24時現在 ※前報からの更新箇所を下線で表示

震央分布図 2020. 11. 1～2026. 3. 16 24時まで

M2.0以上、深さ30km以浅

黒の吹き出しは、震度6弱以上
またはM6.0以上の地震

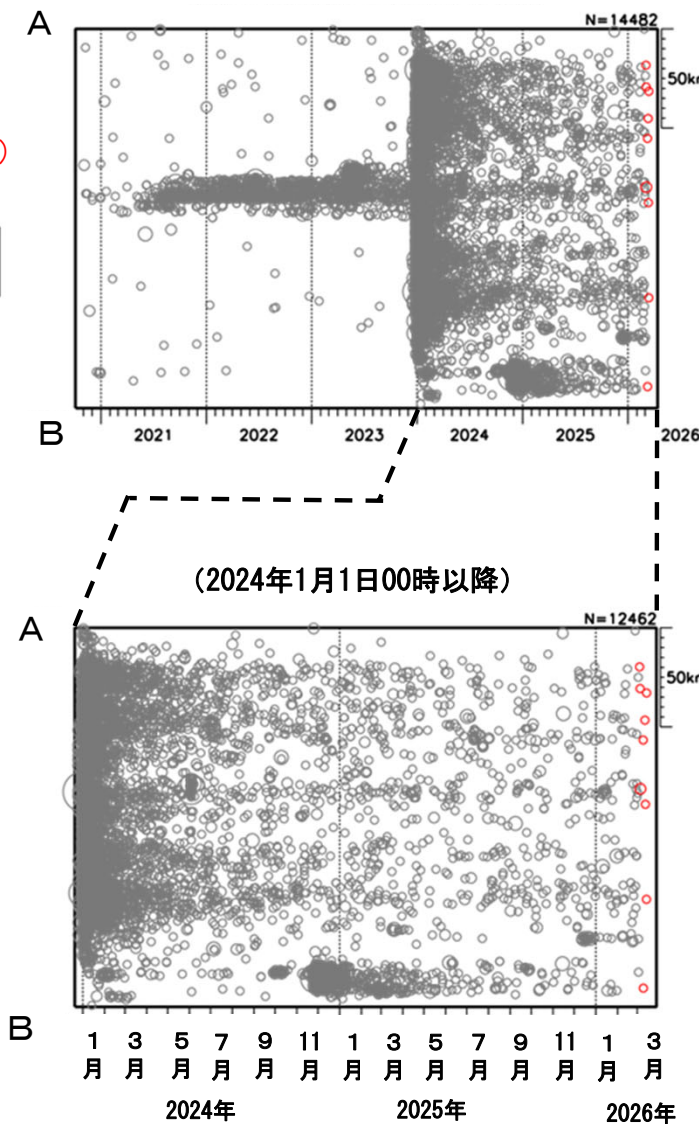
※3月3日以降の地震を朱色で表示
(赤の吹き出しは期間内最大M及び最大震度の地震)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。
表示している震源のうち、3月16日00時以降
のものは速報値。

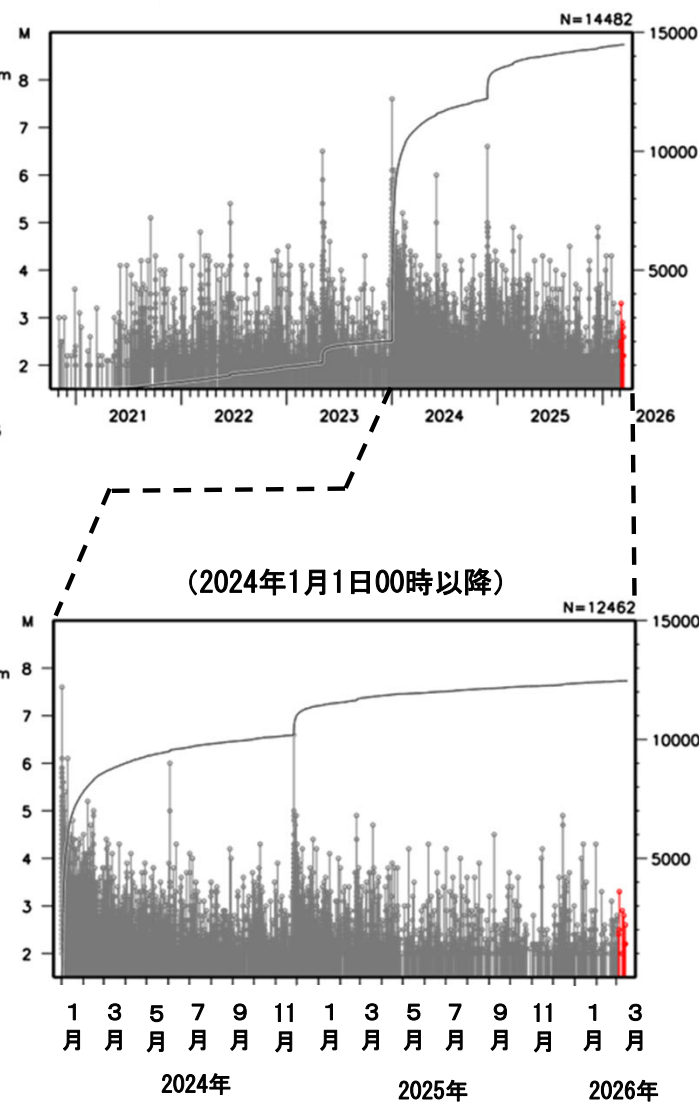
時空間分布図

(矩形領域内：A-B投影、2020年11月以降)

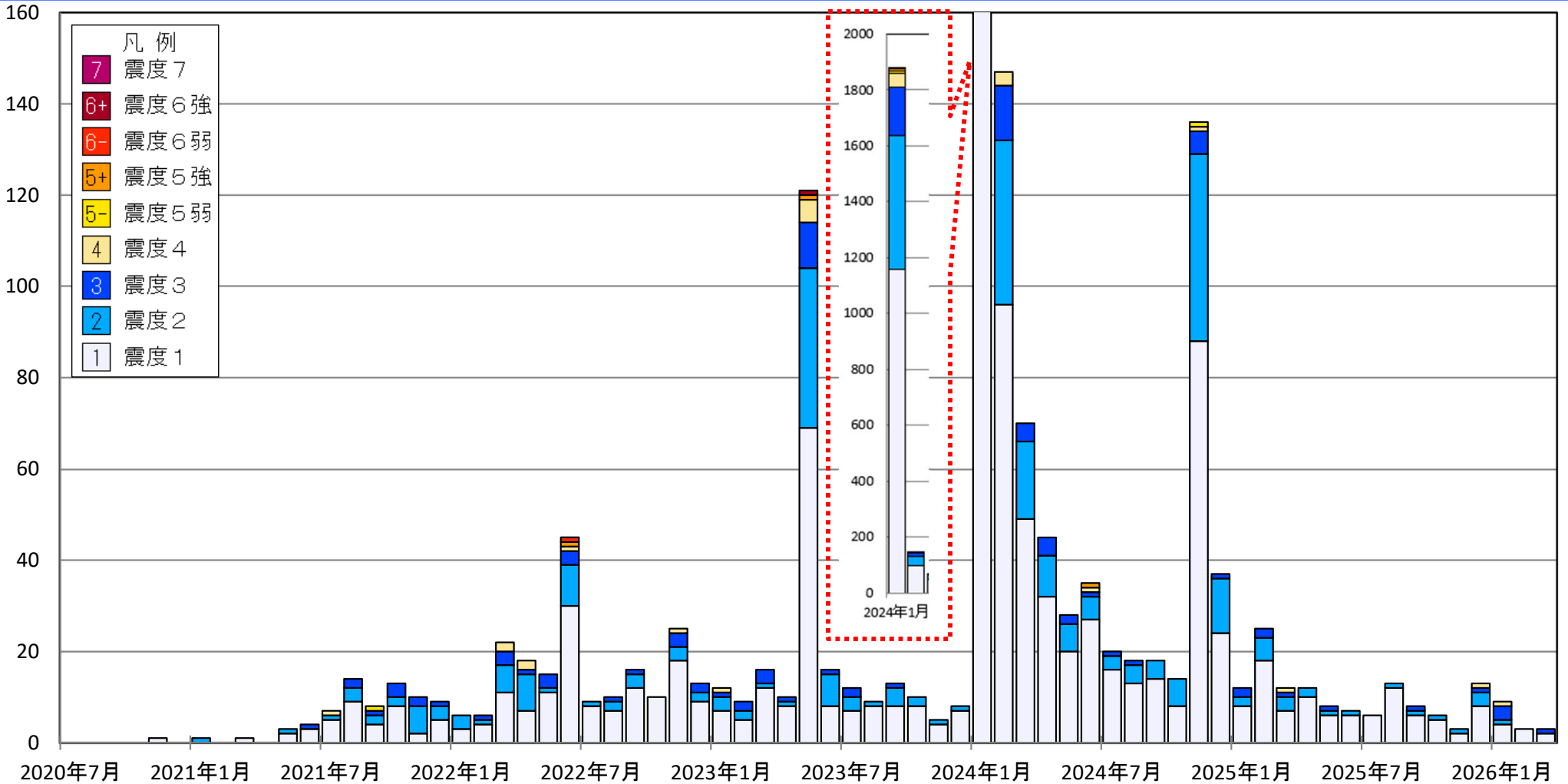


矩形領域内の地震活動経過図 及び回数積算図

(2020年11月以降)



令和6年能登半島地震の月別・震度別地震回数(令和8年3月16日現在)



○2024年1月に震度1以上を観測した地震は1878回だったが、2月は147回、3月は70回と次第に減少。
 11月にM6.6の地震が発生し136回観測したが、その後も総じて減少。2026年2月は3回観測した。
2026年3月は3回。

(注) 掲載している値の精査が2026年3月9日に完了し、2024年1月(精査前:1558回)と2024年2月(精査前:144回)の地震回数が増えになりました。

【報道発表】https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/09c/20260309_noto_shindo_seisa.html

2024年1月1日以降と2023年12月31日以前では、数えている地震の震源範囲が違います。2023年12月31日以前は、珠洲市周辺を震源とした地震の回数のみを数えています。